

事業名	産官学地域課題解決推進事業
-----	---------------

総事業費	398 千円
------	--------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	新たな産業基盤と雇用環境の整備
	基本事業名	産官学連携の推進

② 実施 (Do)

事業の意図	①連携する ②課題を共有する	
事業の実績 と成果	取組内容	産官学連携による地域課題の解決や、未来人材の育成を図る。
	成果	種子島中学校や種子島高校と大学との連携を図り、中高生に地域課題の解決策を考えてもらい、地元愛を醸成できた。また、種子島シンポジウムは最後の定期開催とし、今後は必要に応じて都度開催することとした。種子島シンポジウムにおいても過去最高の参加者となった。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学との連携における大学側が行いたい「研究」と、行政が求める「課題解決」とに乖離があること。 ・市民が求める具体的な課題解決になっていないこと。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	<p>種子島中学校や種子島高校と大学との連携を図り、中高生に地域課題の解決策を考えてもらい、地元愛を醸成できた。また、種子島シンポジウムは最後の定期開催とし、今後は必要に応じて都度開催することとした。種子島シンポジウムにおいても過去最高の参加者となった。</p> <p>これまでの産官学連携による取組については、エネルギーや教育といった部分の比重が高く、業務内容の見直しや整理を行ってきたところであり、オープンプラットフォームの取組は最低限残しつつ、課で所掌する事務の課題について、産官学連携により課題解決を図る。</p>

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	シンポジウムの定期開催が終了したことによって、事業自体の見直しも必要になってくるが産官学連携による取組は行っていき、さまざまな課題解決を図る。
------------	---

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	種子島シンポジウム2025の様子